

# 平成 23 年度第 1 回獣医学術功績者選考委員会の会議概要

I 日 時 平成 23 年 11 月 16 日 (水) 13:00~15:00

II 場 所 日本獣医師会 会議室

## III 出席者

【委員長】 酒井 健夫 日本獣医師会学術担当理事 (日本大学生物資源科学部教授)

### 【産業動物部門委員】

明石 博臣 東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
齋藤 康倫 千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所長  
佐藤 繁 岩手大学農学部教授  
澤田 勉 大阪府立大学名誉教授  
○中尾 敏彦 元山口大学農学部教授

### 【小動物部門委員】

○佐藤れえ子 岩手大学農学部教授  
西村 昌数 帯広畜産大学名誉教授  
日笠 喜朗 鳥取大学農学部教授

<欠席：委任状提出>

木俣 新 木俣動物病院院長  
丸尾 幸嗣 岐阜大学応用生物科学部教授

### 【公衆衛生部門委員】

○石黒 直隆 岐阜大学応用生物科学部教授  
林 賢一 滋賀県衛生科学センター所長  
丸山 総一 日本大学生物資源科学部教授  
山田 章雄 国立感染症研究所獣医科学部部長  
山本 茂貴 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部部長

【本 会】 近藤 信雄 (副会長)、矢ヶ崎忠夫 (専務理事)

## IV 議 事

- 1 副委員長の選任 (協議)
- 2 委員会における検討事項 (協議)

日本獣医師会獣医学術賞 (獣医学術奨励賞、獣医学術功労賞) の選考・審査等

## V 会議概要

開会に当たり、近藤副会長から挨拶が行われた後、委員の出欠の確認が行われ、欠席委員からは各部門副委員長への委任状が提出されていることが事務局から報告された。

## 1 副委員長の選任

各部門における委員の互選により、産業動物部門は中尾委員、小動物部門は佐藤委員、公衆衛生部門は石黒委員がそれぞれ副委員長に選任された。

## 2 委員会における検討事項

### 日本獣医師会獣医学術賞（獣医学術奨励賞、獣医学術功労賞）の選考・審査等

事務局からの日本獣医師会獣医学術賞に関する規程の説明に続いて、獣医学術奨励賞については日本獣医師会雑誌に掲載された研究論文（原著・短報）の中から、獣医学術功労賞については推薦のあった業績の中から、それぞれ部門ごとに選考が行われた後、各部門の副委員長から審査結果と選考理由がそれぞれ以下のとおり報告された。

### 【 産業動物部門 】

#### 〔 獣医学術奨励賞：候補業績 52 題から選出 〕

Two-step vaccine program の牛ウイルス性下痢ウイルス 2 型に対する有用性評価

加藤 肇（根室地区農業共済組合西春別支所）、他

＜選考理由＞ 牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）感染症ワクチンの接種プログラムを検討するため、1 型及び 2 型ウイルスを含む不活化ワクチンまたは 1 型生ワクチン 1 回免疫、不活化と生 2 回免疫の 3 群を設定し抗体の上昇を評価した。この結果、不活化と生ワクチンの 2 回接種は 1 型および 2 型ウイルスに対する抗体上昇を誘導し、1 型のみならず 2 型の感染防御も期待できた。本業績は BVDV 感染症のワクチンによる防御に大きな示唆を与えるもので、今後の調査研究の進展に著しく寄与する。

#### 〔 獣医学術功労賞 〕

産業動物獣医内科学における学術の業績とその普及実績

内藤善久（岩手大学・名誉教授）

＜選考理由＞ 長年にわたって産業動物分野の獣医学術活動に従事し、特に、乳牛の低カルシウム血症の臨床的研究において著しい業績をあげ、学術専門誌に多数の論文を発表した。これらの業績は、産業動物獣医学に関する学術の振興及び普及に著しく貢献した。

### 【 小動物部門 】

#### 〔 獣医学術奨励賞：候補業績 62 題から選出 〕

中/内耳疾患を疑う犬における聴性脳幹誘発反応の有用性の検討

長村 徹（大阪府開業）、他

＜選考理由＞ 日常の診療の中では確定診断の難しい中/内耳疾患に対して、聴性脳幹誘発反応を実施し、画像診断では判断できない機能面での評価を試みたものであり、今後の小動物臨床面での応用が高く期待できる。本論文は、症例数は少ないながら、個々の症例に対する経過を追った十分な検討が展開されており情報の質・量ともに大きく、さらに、聴性脳幹誘発反応の臨床的意義付けが的確に論議されているため、今後の臨床応用に期待される。

### 〔 獣医学術功労賞 〕

小動物における再建外科に関する研究と普及 田中茂男（前日本大学・教授）

〈選考理由〉 長年にわたり小動物臨床獣医に取り組み、特に様々な再建外科手法を開発し、その成果を学術誌に多数掲載し、最新の獣医療の発展に功績を残すとともに獣医学教育分野の充実と獣医学研究の発展に尽力された。

### 【 公衆衛生部門 】

#### 〔 獣医学術奨励賞：候補業績9題から選出 〕

長崎県沿岸における *Vibrio vulnificus* の分布と環境因子

山崎省吾（長崎県環境保健研究センター）、他

〈選考理由〉 *Vibrio vulnificus* による感染症は、有明海、東京湾や瀬戸内海など限られた地域で発生し、*Vibrio vulnificus* の生息分布や環境因子と深く関係しているとされてきた。本論文は、こうした点に着目し、*Vibrio vulnificus* の生態について、長期間にわたり幅広く海水中の細菌数の動きをモニタリングし、生息分布や環境因子との関係を明らかにした。

#### 〔 獣医学術功労賞 〕

有害真菌の食品危害と病原性因子に関する研究

高鳥浩介（前国立医薬品食品衛生研究所・部長）

〈選考理由〉 長年にわたり真菌学における学術研究への貢献と食品衛生およびブローニスでの獣医公衆衛生分野への貢献を行うとともに、国内外を問わず多くの若手研究者を育成し、獣医公衆衛生学に関する学術の発展・普及に大きく寄与した。

## VI まとめ

平成23年度第1回委員会は、酒井委員長によって以下のとおりまとめられた。

- 1 平成23年度第2回委員会は平成24年2月4日（土）、平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）の会場である札幌コンベンションセンターにおいて開催すること。
- 2 平成23年度日本獣医師会獣医学術賞の発表と授与は、平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）の場において行うこと。